

第3回 仙台市文化芸術推進基本計画検討懇話会 議事録

- 1 日時 令和5年9月8日（金）15時30分～17時30分
- 2 場所 日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）
研修室2
- 3 委員出席数 出席委員7名（垣内恵美子会長、吉田利弘副会長、青木ユカリ委員、菅野幸子委員、佐藤李青委員、柴崎由美子委員、山田淳委員）
欠席委員3名（五十嵐太郎委員、笠原信男委員、庄司遥委員）
- 4 議事録署名委員 垣内恵美子会長、菅野幸子委員
- 5 議事要旨

1. 開会

- ・7名の委員の出席により、要綱第5条第2項に規定する定足数を満たしていることを報告。

2. 意見交換

- ・以降の進行役は垣内会長が務める。

【懇話会の運営の確認】

- ・懇話会の公開について確認。懇話会は原則公開とし、審議の中で非公開とすべき部分が出てきた際には、その都度、委員の皆様にご諮って決めることとし、各委員了承。
- ・議事録の作成について確認。事務局が作成した議事録の案について、会長と他委員1名で確認、署名をして議事録とし、仙台市のホームページ等で公開すること、および議事録に署名をする委員は持ち回りとし、今回は菅野委員に依頼をすることとし、各委員、菅野委員了承。

【（1）（仮称）仙台市文化芸術推進基本計画の骨子案について】

- ・事務局より資料1から資料4の報告、資料5に基づき説明。

垣内会長 今のご説明の中で、先日行われたワークショップについてのご説明もございました。企画協力いただいた委員の柴崎委員、当日の参加者の皆さんの様子など、ぜひお話いただきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

柴崎委員 以前この場でも申し上げましたが、すでに知っている人たちのコミュニティで小さく行うのではなく、このテーマをまちの中の、開かれた場所で開催

したいという思いを持ってメディアテークの1階を使用させていただきました。流動的に参加する方もいましたが、結果的に合計で120名の方たちがお盆の入りの時期に参加されたということで、ほっとしています。

運営に関しては、私たち市民側の各種芸術文化団体、NPOが複数、協力をしながら、仙台市の皆さんと一緒に話し合っ活動を進め、当日も一緒に汗をかき、運営しました。この委員会の中でもプロセスがすごく重要というお話があったのですが、そうした腹を割った形での議論や対話もできた時間だったと思っています。改めて運営に関わった皆さんにもお礼を申し上げたいと思います。

その上で当日の状況についてももう少し具体的に説明をします。まず会場の構成は大きく「あそびの場」と「対話の場」という2つで、先ほど文化振興課長さんからもお話があった通りです。予想した通り、子ども連れのご家族、障害児を持つご家族などが参加し、アンケート回答や立ち話の中からも、こうしたあそびの場がある傍らで、自分たちの芸術文化の権利について、真剣に話す場に参加できたことが嬉しい、という声をいただきました。

「あそびの場」は仙台にある2つのNPOが美術とパフォーマンスという視点から構成し、2時間、事故なく、場を創出しました。

それから「対話の場」の中でのハイライトについてです。冒頭に文化振興課長さんからこの計画やワークショップの意義について、非常にわかりやすいお話がありました。その後、仙台市市民文化事業団総務課より、事業団が助成事業の仕組みを変化させ、環境形成助成という、特色ある助成金の説明がありました。いわゆる、何か創造して発表するアーティストたちの支援だけでなく、横軸として障害のある人の参加、あるいは子どもの参加、あるいは外国の方たちとの交流を促すために文化芸術の力を使っているアーティストたちの活動など、非常に多岐にわたる支援の最新事例をお話いただきました。この場に実は菅野委員がいらしたのですが、「こういう情報はなかなか市民に伝わっていないかもしれない」という、お声がありました。本当にその通りで、あの場所で事業団の助成事業、仙台市が応援している事業についてしっかりと最先端の事例が短い中にも話されたことは、多くの参加者、市民を勇気づけたと思っています。その後、具体的な活動事例として仙台から2事例と、横浜市の1事例についての説明がありました。後半はこうした事例を通じた「思いの共有」の時間としました。テーブルを設けてそこに市民が集まり、まず話を聞いて受けとめたこと、それから自分たちがどう考えるかということの、インプットとアウトプットを時間をかけて行うことにより、皆さんと対話を重ねられたと思っています。その中でいくつか出てきたハイライトをご紹介します。1つ目は、幼いころからの文化芸術の体験の

必要性です。このことを通じ、青年期あるいは成熟期において、このまちの中での様々な参加体験あるいは創造をし、場合によりプロとして発展するという話題がありました。2つ目は、情報発信について。仙台市、あるいは宮城県という文化行政の様々な障壁や難しさがある中、特に特別支援学校等の生徒たちに情報共有ということが、連携しない限りは伝わっていかないという課題があげられました。そうしたことに気づき、この活動を促していくために、行政だけではなく、市民側のNPOの力や連携、またコーディネーターの役割ということについても話が及んでいました。そして三つ目は、障害のある当事者が自ら、3名の方が手を挙げてお話をされたことです。身体障害の方、聴覚障害の方、そして最後には発達障害の方が文化芸術活動への参加あるいはこうした活動の意義を、自ら話したということは非常に大きなことだったと思っています。そして最後に仙台市の文化芸術を担ってきたコーディネーター、ディレクター的な立場の参加者の中から、仙台市や宮城県の事例というのは、被災地という、災害からの体験に基づいて生まれてきているものでもあるのではないかと、という問いがあり、全体の共有ディスカッションが終了しました。

休日にたくさん、仙台市の行政の皆さんも参加していただきありがとうございました。これはポジティブな意味で聞いていただきたいのですが、ディスカッションの場にぜひ市の方たちも入って欲しかったというご意見を複数、市民からいただきました。次回またこのようなワークショップの場がありましたら、ぜひこうした対話の場に皆さん自身も入っていただけると、とてもいいなとラブコールを送りたいと思います。以上です。

垣内会長

ありがとうございます。非常に具体的、鮮明でイメージが伝わるお話を頂戴いたしました。改めて御礼申し上げます。

さて、本日の懇話会の目的ですが、計画の骨子案を示すということです。前回までの懇話会で確認したこと、仙台市の現況や国の動向、今後の方向性、目指す姿も含めた形で計画の骨子案、全体像を示していただいたと思います。ご説明の中にあつた基本理念や重点プロジェクト、それから施策の体系、計画の推進、この辺りは本日先生方にお目通しいただいた上でご議論いただき、コメントを頂戴したいところです。ここからは2つのテーマに分けて意見交換に入りたいと思います。

1つ目は、基本理念。非常に重要なポイントですし、前回の懇話会の意見からさらにいろいろな観点から付け加わった部分があるかと思いますが、共生社会とか多様性の問題、それからSDGsなどもおそらく念頭に置かれているかと思っています。この基本理念についてまずご意見を頂戴したいと思います。

2つ目は、骨子案の中でも特に重点プロジェクト、それから計画の推進にかかる部分、最後に計画の名称についてです。行政の計画ですのでこれ以上なかなか工夫がしにくいところではありますけれども、計画の名称につきましても何かお考えがあれば、ぜひお気づきの点も含めて、委員の先生方からご意見を頂戴したいと思っております。資料は事前に電子ファイルで先生方に送られているかと思えます。本日も発言順の指定はございません。ご発言されたい場合、挙手にてお知らせいただけたらと思えます。まずは基本理念、資料5のp.4にございますとおり「多様な個性が輝き、まちの未来を拓く～ひとりひとりがよりよく生きる文化芸術の杜～」というサブタイトルもついています。前半の部分は色々ところで一般的に使われているワードもあるかと思えますが、「杜」というところで仙台のイメージがくっきりと出てきたと思えます。このタイトル、それから説明文も含めて非常に重要な、この計画の根幹を成す部分になると思えますので、ぜひいろいろな形でご意見を頂戴できればと思えます。前回の議論をかなりコンパクトにまとめていただいたかと思えます。では佐藤委員、お願いいたします。

佐藤委員

前回基本理念がない状態から今回このような形でここまで文章化されていることに非常に驚いています。事務局の方が作業されたのかと思えますが、ありがとうございます。

「ひとりひとりがよりよく生きる」というキーワードが前回出ていたと思うので、それが入っていること、それから、ひとりひとりの活動がまちに繋がっていくという流れが書かれているのが非常にいいなと思いました。やはりこの文化とか芸術の活動というのは、ひとりひとりの人と向き合うことができる活動だと思うので、これまで個々人の境遇や多様な分野を横断していくという話が出てきたのも、このひとりひとりの人と向き合っていく中で、結果的にその生活に内包される多様な社会課題や色々な分野と繋がっていくことが見えてきたからなのだと思います。その意味で、このひとりひとりというところからスタートしているのは非常に重要なところだと思いました。そのうえで、3点追加して織り込めるといいと思った点を申し上げます。

1つ目が、ひとりひとりの人と向き合う姿勢が理念に、よりはっきり入るといいと思いました。これまでも社会包摂について話が出てきていましたが、広く、公に開いた活動を行った時にこぼれ落ちてしまう活動があることに気を配ること、まちに広がっていく前に、ひとりひとりの境遇や生き方に寄り添うような小さな活動もきちんと重要視していくことが、ひとりひとりの人と向き合うという言葉と並ぶといいかなというのが1つです。

もう1つが協働や連携という言葉が、これまでの議論で出ていたと思うのですが、事業を協働で実施していく時に、これは市の計画であって、公的な

主体、事業団なども含まれますが、その公的な主体と市民が連携するとき、対等に一緒にやるということが大切です。冒頭の柴崎さんのお話でも、ワークショップの実施プロセスで一緒に議論し、一緒に作るということが良かったとおっしゃられていました。行政がお金を出しているから強いとかそういうことではなく、互いに対等である、一緒にやるという姿勢が言葉として入ってほしいです。例えば、4段落目の「ひとりひとりに、文化芸術に親しみ、自由な創造の機会が開かれること」のあたりに、「ひとりひとりの境遇や生き方を尊重し、多様な役割を持った担い手が対等に連携し合い、創造的な活動を育んでいく」といった言葉が入るといいかなと思いました。

もう1つ、コーディネーターという言葉や、活動をつなぐ人という言葉が議論のなかでも出ていました。計画の中にも重点的な項目として入っているので、そうした作り手や受け手だけではなく、「つなぎ手の働きを大切にしていこう」といった言葉を、ここに意思表示として入れてもいいかなと思いました。

ひとりひとりの人と向き合い、小さな活動や生活に寄り添うということと、協働での対等性やつなぎ手という言葉を入れるといいと思いました。以上です。

垣内会長 ありがとうございます。大事なご指摘だと思います。最初のところの小さな活動がだんだんまちに広がっていくというのは、具体的に言うとどのあたりの段落でどんな感じに入るといい感じなのでしょうか。もしイメージがあればぜひ具体的にお願いできますでしょうか。

佐藤委員 先ほど申し上げたことの繰り返しになるのですが、上から4段落目、「自由な創造の機会が開かれることを目指します」というところに、創造的な活動を育んでいくというくぐりを言いましたが、そこに、「大小とらわれず小さな活動も」という言葉を足してもよいかと思います。もう1回、申し上げると、ひとりひとりの境遇や生き方を尊重し、多様な役割を持った担い手が対等に連携し合い、大小様々な活動の大きさとらわれず創造的な活動を育んでいく。さらにそこから生まれる創造的な取り組みが杜に広がっていくという、個人の話からまちに広がっていくという形にしてはどうかと思いました。

垣内会長 ありがとうございます。それではその他、あるいは関連してでも結構です。ご意見頂戴できればと思いますが、いかがでしょうか。それでは菅野委員、お願いいたします。

菅野委員 私の方からは最初の方のところなのですがけれども、それが基本的理念にも関わるとお思いますので、気がついた点を少し述べさせていただきたいと思えます。

第1章の計画策定の項目なのですが、計画の位置付けという点と、第2章の仙台市の文化芸術の現在地という点、この全体についてなのですが、私は文化政策というのは総合政策だと思っています。計画の位置付け、まずp.1の(2)計画の位置付けのところ、これは仙台市の基本計画に基づいていて、そして個別計画という形で、観光、教育、福祉、その他となっているのですが、その他というところが実は私は非常に重要ではないかと思っております。観光や地域活性化という用語ももちろん入ってくると思いますが、例えば医療であったり、アートとテクノロジー、メディアアートなど、これまで関わりがなかった分野も関わってくることを考えますと、市民すべての生活分野に関わる総合政策として捉えていきたいと考えております。計画の範囲というところにもメディア芸術が入ってきて、アニメであるとかコンピューター、こういったIT関連の項目が入ってきています。そうしますと当然テクノロジーもこの中に入ってくる。やはりそういった、もう少し政策としての広がりというのが考えられてもいいのではないかと感じております。

それから第2章の方なのですが、仙台の文化芸術の現在地ということで、こういった考え方は非常に重要だと思うのです。地政学的に考えてどうかということもあるかと思えます。そういった場合、仙台市の文化芸術、あるいはそういった分野での立ち位置ということ、仙台圏域だけではなく、日本全国においてどのような立ち位置にあるか。例えば、同じ規模ではないですが、札幌市であるとか横浜市であるとか、そういった都市と比べて仙台の文化芸術というのはどういった現在地にあるのか。それから、国際的というところまでは大変かとは思いますが、現在、都市政策の中に文化芸術というのがかなり大きな位置付けに入ってきています。そういった場合、ユネスコの創造都市ネットワークであるとかそういった考え方がたくさんありますけれど、仙台というところが、東北のゲートウェイとしてどういった位置付けにあるのかということも重要ではないかと思えます。仙台の文化芸術、あるいは都市がどういうところにあるのか、そういった大局的な観点から見ていくことも重要ではないかと思いました。以上です。

垣内会長 ありがとうございます。今のご質問に関して事務局の方から、例えばこういった分野でその他にどんな個別計画があるのか。また、ポジショニングの件ですが、ここに他都市との比較データをいずれは入れ込むというようなお話もご説明の中にあつたかと思えます。今のご質問に対して補足説明をお願いできればと思います。いかがでしょうか。

文化振興課長 他都市との比較というところなのですが、第1回懇話会の資料の中で、規模の似通った都市をベンチマークとして比較の資料をご提示しております。

た。その中で札幌市や広島市、福岡市、神戸市、川崎市といった政令市との比較をした場合に、仙台市の市民の文化芸術の活動率であるとか、主要な文化施設の利用の実績であるとか、そういった比較をしております、先ほどの仙台の現在地の章の中で、こういった分析の部分についても、中間案の段階では書き込みをしたいと考えております。

文化スポーツ部長 連携すべき個別計画として、テクノロジーもあるのではないかと趣旨のご指摘もいただきました。ここで示している個別計画は例示であり、一方でテクノロジーに関する本市としての個別計画はございませんが、本市では基礎自治体として必要な個別計画を様々策定しているところであり、文化芸術は多くの分野に関連するものでございますので、ここで例示として掲げている個別計画をはじめ様々な個別計画との連携を意識しながら、文化芸術推進基本計画に基づく施策も展開していく必要があるものと認識しております。

垣内会長 ただ今のご意見の趣旨も踏まえて中間案の方はおまとめいただくということにしたいと思いますが、他に何かご意見ございませんでしょうか。非常に大事な点、ポイントでございますので、できるだけ多くの委員の方々からご意見を頂戴したいところです。では柴崎委員、その後、山田委員にお願いいたします。

柴崎委員 少し前に戻ったところで恐縮ですが、第2章の部分、p. 2⑦の「障害のある方や子どもたちに向けた取組み」という文言が気になっております。というのは、年齢や国籍等にも関わらずというような要素も加えた時に、このタイトルは「社会包摂を基調とした取組み」というように大きくとらえた方がいいのかなと思うのです。ベストな言葉かどうかわかりませんが検討いただきたいと思っております。

それから p. 4 の基本理念のところ、1行目の「文化芸術は人がよりよく生きる力の源であり、また人と人が手を携えて共に生きていくうえで大切なものです」のうち、「手を携えて」という表現がとても気になっております。文化芸術が必ずしも、目に見える形でコネクトしてなくとも、環境から受け止めていくというようなところがあると思うのです。「よりよく生きる」という文言が入っている時点で、相当、人に配慮した言葉寄りになっていると思うので、「手を携えて」という表現は取ってもいいと思います。

それから4つ目のパラグラフの中、3行目、「芸術に親しみ、自由な創造の機会が開かれる」と書いてありますが、障害のある人等に係る法律の中では、「創造」という言葉が、どうしても作ることに限定したイメージになるため、「鑑賞」とか「参加」という言葉が使われています。例えばコンサートに参加しに行くとか、鑑賞するということも重要です。これら全体を通

じて「創造」というようにここでは捉えているのかもしれませんが、ものを作る、発表するというところに、施策が限定的になるっていうところから振り戻されて、ここ5年、「鑑賞」や「参加」という言葉が重視されているので、そういった文言の検討もいただきたいと思っております。以上です。

垣内会長

ありがとうございます。それでは、山田委員、お願いいたします。

山田委員

お疲れ様です。山田です。全体的にこの計画を見させていただいての印象と、それから要望について、お話させてもらいます。先ほど佐藤委員が触れられていた部分に共通する件なのですが、実は先週、公共ホールの役割を考えるというシンポジウム「地域ホール～千のプラトール」がありまして、東北各地の新築であったり、リノベーションであったり、色々な形でのホールの意義を考えるシンポジウムがありました。（文化庁支援事業の）アートキャラバンみやぎの一環でやっている連携事業なのですが、そこには日本芸能実演家団体協議会さんが主催して、私どもも共催をさせていただきました。その団体の方のお話の中で、北海道から九州までのそれぞれのエリアで取り組まれている実際の体験談を基にした報告がありました。それぞれやはりエリアによって様々な課題があり、もちろん違う課題もあるのですが、共通して言えるのは、様々な取り組みの中で、団体による連携を通じて、いわゆる地域課題が見えてくるということでした。これまで全く知らなかったことが、異業種であったり、もしくは同業者であったり、それから世代を超えてだったり、そういった方々が一緒になって議論することで、相対化していけるという話があったのです。それで、結果的に最後に集約されたメッセージとして、このようにおっしゃっていました。「先の見えない時代、個々の組織では解決できない課題に連携、協働で」というところがございます。それから「競合から共創へ」ということがございますので、この基本理念と目指す姿の説明文の方で、それに合致する部分、上から5行目の「本市では、これまで市民協働～」ということがございましたが、例えば最後のページの第5章に計画推進ということで、ここにレイアウトしていただいているのですが、その中にも協働とありますが、それぞれ結びつけるのは連携なんですよ。連携支援も含めてこんなに連携がいっぱい出てきているので、できれば、説明文の中にもうちょっと明文化して欲しいという気持ちがあります。文言はおまかせしますが、様々な団体、個人との連携により、地域課題を解決するであったり、地域連携の重要性、そういったものがここに具体的に示されるといいなという希望と、それから、この基本理念を目指す姿に[1]から[5]までございましたが、これもそれぞれたぶん、テーマごとにとりか、その相手方によって色々な作り方をされていると思うのですが、できればこういったものが横串でいろいろ連携できるような形、そう

いったものが見えてくると良いのではないかと思います。第4章も含めて、この計画の中にそれぞれありますけども、横串で何かいわゆる連携していくような形で創造していくとか、地域課題を解決していくとか、実行するとなると様々なハードルがあると思うのですが、その課題解決に向けた連携という言葉があってもいいのかなと思います。枠を超えてお互いに共生していくように新しい組織を作っていく、創造都市とでもいうのでしょうか、お互い一緒に作り上げていく、一緒に課題解決していくというようなことがあっても、文言としていいのかなという、漠然とした言い方で恐縮ですが、そんなことをお話を聞いていて感じたところです。

垣内会長 ありがとうございます。書きぶりは事務局にお任せするということが、趣旨を酌み取っていただいて、ここに組み込んでいただくということかと思えます。他に、ご意見ございますでしょうか。それでは青木委員。そして最後に吉田委員ということでお願いいたします。

青木委員 前回欠席いたしましたけれども、先ほど佐藤委員から色々な議論の結果でこのような言葉になったというお話を、なるほどと思いながら伺っておりました。基本理念の1行目「人がよりよく生きる力の源である」この部分のフレーズは私も共感というか好感を持っておりました。それぞれのご指摘いただいた部分についても、そういった観点が含まれるとなおいいなと思いつながら伺っていたところです。

山田委員から公共ホールのシンポジウムのお話がありましたが、私も参加をさせていただきました。その観点から1点、p. 2の⑧文化施設のところで、整備に関するコメントや項目になっているかと思えます。既存にある施設、ハードの部分の整備は、もちろん出てくるかと思いますが、最近は様々なオープンスペースでの取り組みもありますし、小さな活動であれば、身近なところのオープンスペースやパブリックスペースの活用というのも、様々な制度の改正などもあって利用がしやすくなっていると思えます。そういった観点で、様々な部局との調整連携というような観点も出てくると思えます。文化施設のみならず、その表現活動を行えるような空間の環境整備への視点も加えていただいてもいいのかなと感じました。また、計画の推進体制について、山田委員からお話がありました連携という観点での広がり、こういった模式図のところになるかと思いますが、実際いろんな側面で協働が生まれ、連携先のあり方というのも、もう少し細やかにあるのかなと思えます。この推進体制という部分の表現として、細やかな対象を表現し、庁内の調整の部分をお示しいただくというのも、もう少し全体像の広がりというところも含めて想像できるのではないかなと感じたところです。

吉田副会長 私も公共ホールのシンポジウムを聞かせていただきましたけれども、やは

りそこで出てきました、「連携」「協働」という、まさにポイントとなる言葉なのですが、実はその辺のところは事務局の方も十分に意識しているものと受けとめている次第です。それはどこかと言いますと、サブタイトル、ひとりひとりがよりよく生きる文化芸術の杜という「杜」です。私が説明するまでもなく、この杜の意味することは決して自然発生的な森林、そういう意味ではないということです。過去をたどれば、いわゆる屋敷林からスタートして、それから戦後の焼け野原に街路樹を植えて、そして緑のまち仙台を自ら作り上げたという、そういう背景があるんですね。ですから、ここに使っている杜というこのキーワードは十分にその辺のところを意識されて、やがて私たちはこれから文化芸術の杜というものを作っていくのですよという姿勢があらわれているのかなと感じ取っています。ただ、そうしたその「杜」の背景を知っている人がわかるのであって、単なるニックネーム的な杜の都というような解釈では、そこまでは理解してもらえない。そういう意味で、タイトルの設定理由のところ、その杜の意味することについて触れていただければ、そのタイトルの意味することをみんながしっかりと受けとめてくれるのではないかと考えた次第です。以上です。

垣内会長

ありがとうございました。いろいろなご意見を頂戴したところで、私からもコメントをしたいと思います。P. 4の4段落目の文化的環境というのが気になりました。担い手たる市民の存在は欠かせないという記述も引かかっています。文化は基本的に自由にそれぞれの人がやる。だから仙台市の文化は仙台市民が作ってきたものであり、今後も作っていくものと思うので、文化的環境として紹介する必要はないのではないかなと思いました。この段落は、市民が文化を作っていく、それを未来につなぎ、発展させるのも市民だということを明確にした上で、では市の役割は何か。ここで本市という言葉が出てきますので、一人一人が何かをしようとしたときに、なかなか自分たちだけではできない、どうしても障害が出るような、そういったところに、市は様々なお手伝いをするのだという、そのような宣言をするところなのかなと思ったのです。ですので、仙台市の豊かな文化という記述でもいいのではないかなと思うのです。文化を築いたのは市民であり、今後も築いていくのは市民です。一方、市の役割は皆さんの血税を使って、一人一人、あるいはそれぞれの団体だけでは解決できないような条件整備をしっかりと整えていく、そのようなところを明確化すると。先ほど佐藤委員からも柴崎委員からもいろいろご意見出ましたけれども、そういったところで、なかなか現場でうまく回っていかないところをスムーズにするところを明記するというのがポイントかなと思いましたので、この段落はとても重要だと思います。環境にだけ特化しなくてもいいですし、市民が重要だったり、市民が

中心なのは当然のことなので、そこはちょっと明記していただいた方がいいかなという感じがいたしました。

さて、色々なご意見を頂戴しました。あとは事務局の方で整理していただくこととし、本日の2つ目のテーマ、計画の骨子案全体について、特に重点プロジェクト、それから計画の推進に係る部分、計画の名称について何かお気づきの点があればぜひご意見を頂戴したいと思います。こちらでも挙手をお願いしたいと思います。この会議もそんなに回数を多く重ねるわけではないので、ぜひ全員からコメントを頂戴したいところです。いかがでしょうか。では佐藤委員からお願いいたします。

佐藤委員

5点ほど、まとめて申し上げたいと思います。

まず、重点プロジェクトと計画の推進に係る部分についてです。この基本施策と重点プロジェクトの違いが気になりました。重点プロジェクト自体は、この基本施策の中で力点を置く、いわゆる既存事業を拡充していく話なのか、重点プロジェクト自体を新規事業として推進体制を作って、予算化を進めていくものなのか。素朴に重点プロジェクトはどのような位置付けなのだろうと思いました。

もう1つ、現在4つ重点プロジェクトがあるのですが、その中で例えば目指す姿の「あらゆる人に参加機会が開かれ、文化芸術に親しめるまち」であったり、基本施策にある、文化芸術による社会包摂にかかる取組みの充実というところは、これまで重要だと議論してきた項目だと思います。むしろ重点プロジェクトの1つになるような項目なのではないかなと思いました。

次に、基本施策についてですが、行政が計画を作るのは、条件整備や環境整備であり、1つの活動ではできない基盤づくりだと思ったときに、この12あるうちで⑨アーカイブの推進と⑤基盤づくりにかかる調査・研究というのは重要であり、特色になるものなのかなと思いました。⑨に関しては具体的に見ると、複合施設におけるメモリアルの部分に関する事業が出ていますが、これは計画の理念の文章に、震災の話が入っているということもあり、こうした記憶の継承に関わる部分は仙台市が作る計画としての特色であるし、逆に1つの活動ではなかなか成し得ない全体のベースづくりになるものです。かつ震災だけの話ではなく、地域に様々な記録があると思うので、そういうのも含めて大事にしていくのだというところは、目指す姿に挙げられている項目と重なり、重要ではないかと思います。

⑤基盤づくりにかかる調査・研究は、重点プロジェクトに文化芸術の担い手を育む協働プロジェクトが立てられているように、コーディネーターや、担い手というこれまでの議論で繰り返し出てきたことなので、この部分をどのようにやるのかは、新たな活動として重要な軸になるのだと思います。基

盤づくりにかかる調査・研究の準備から始めましょうということなのですが、むしろここを実験的に何かをやってみる、試行的な取り組みを行うぐらいまで、仙台の場合は踏み込んだ記述も想定できるかなと思いました。というのは5年の時間を考えたときに、人材育成は時間がかかることだと思います。同時に仙台でこれだけコーディネーターの議論が出ているということは、ある意味でコーディネーターの人たちがいるという状況でもある。このコーディネーターの人たちの環境を改善することが、まずあるのではないかな。1回目の懇話会だったと思うのですが、柴崎委員がコーディネーターの人たちが活動を継続していくための施策が必要なのではないかという話をされたのがとても印象的でした。今いる人たちの環境を改善したり、コーディネーターの仕事だと業務を可視化していだけで、すでにコーディネーターがいるという状態と言えるのではないかな。かつ、その人たちが今までやったことがないような、他の人と連携をしたり、何か自分たちでやっていたものを公的な事業でやってみるといような、別の経験を積むような事業があると、ゼロからコーディネーターの人を作るだけではないスタートの方法もあるかなと思いました。もちろん、それを5年続けても新しい担い手は生まれてこないで、色々なプロジェクトに新しい担い手、コーディネーターになるような人が入ってくる仕掛けを作ることにも必要です。その新しい人が入ってくるところは、基本施策の③と④と⑤の事業、共通にある項目になるのかなとも思いました。人材育成プログラムとして新しい人が集まって、5年経ってコーディネーターになっていくというところがあれば、同時に今いる人たちの環境を改善することもある。たとえば助成事業で、事業だけではなく人にかかる経費やコーディネーターにかかる経費というのをきちんと項目に入れることで明確化していく、環境を改善していくという方法もあると思います。

最後に推進体制のところです。この文言を読むと、文化芸術推進基本計画を推進していくための庁内の会議を、分野横断で、課を横断して設置することと、実際に現場で動く人たちがネットワークを作るところと、活動を評価する体制を作るとい3つが出ています。計画が作られることで、今既存の事業を整理しつつも拡充する部分が出てきたり、新しく取り組む部分が出てくるので、それを誰がやるのか、誰が横断的に見ていくのか。そう言ったときに、例えば庁内だけではなく、実施メンバー間で議論のテーブルを作る推進体制もあるのではないだろうか。重点プロジェクトごとにコーディネーターがいるのであればその人たちと、市や外郭団体の人たちが一緒に議論するテーブルを作っていくなど、一緒にやっていく場を作るやり方もあるのかなと。その方が互いに新しいことをやっていく経験になったり、実際に

計画として推進していく1つの動きが作れるのではないかと。会議体だけでなく、推進、運営体制を庁外につくるといいのではないかと思います。

それから細かいところなのですが、市の役割のところ、これはなかなか入れるのが難しいかもしれないですが、例えば予算措置や、ルールの更新という言葉を入れてほしい。これは垣内委員が毎回おっしゃっていることだと思いますが、市の役割として予算をつけることはもちろんあるとしても、今あるルールを更新したり、活動の担い手の人たちがより動きやすくする環境整備があるのだと思います。市の役割の項目に、そうした言葉が入っていると、行政側が基盤整備するというのがより見えやすくなると思います。以上です。

垣内会長 ありがとうございます。重点プロジェクトについてのご質問もありましたので1回ここで事務局から補足説明をいただいた上で他の委員のご意見を頂戴したいと思います。

文化振興課長 まず、最初にいただきました、この重点プロジェクトと基本施策との関係というところでございますけれども、重点プロジェクトにつきましては、基本施策でいろいろ掲げているような施策の中でも特に市として、今後重点的に拡充なり、力を入れていくべき施策ということで位置付けをしたところでございます。

垣内会長 ということは、ここに4つの重点プロジェクトがありますが、もう1つ2つ、付け加えてもいいということですか。

文化振興課長 そこは今回のご意見を踏まえて検討させていただきたいと思います。

垣内会長 ということでございます。その点も踏まえまして、ご意見を頂戴したいところです。菅野委員お願いいたします。

菅野委員 今、佐藤委員がおっしゃっていただい点は、私も大変気になっている点です。やはり予算措置が実現していかないと、こういった施策の実現がなかなか難しいと思いますので、今後そういった予算措置について、ぜひ頑張っていただければと考えています。

それと、p. 8、p. 9、具体的な重点プロジェクトと書いていただいているのですけれども、こちらの施策の具体的方向性ということで、色々な重要なところを書いていただいて非常にわかりやすくなっているかとは思いますが、その主な取組みの例として、これはこれまでの既存の取組みを列記していただいているかと思うのですが、この基本計画が策定されることによって、新規のプロジェクトであるとか、そういったものを箇条書きなどにしていただくとより分かりやすくなるのかなと感じました。既存のプログラムについては、仙台市の方々がこれまで色々な事業に取り組んでこられたという成果でもあるかと思うのですけれども、やはりこの基本計画が作られるこ

とによって、何か変化していく方向性がこういった事業展開の中にも、わかりやすく、見えてくるものがあると良いのかなと感じましたので、そういった既存のプログラムと新規に考えられるものを、わかりやすく、色々な工夫が必要かとは思うのですけれども、そういったことが分かりやすく見えるといいのではないかと感じました。以上です。

垣内会長 事務局から、この点について補足されますか。

文化振興課長 次の中間案の段階では、基本施策の中の主な取組みの中でも、これが重点に当たるものなのか、あるいは新規で取り組むものなのかということ、分かりやすくお示しをしたいと考えております。

垣内会長 ありがとうございます。それでは他にコメントございませんか。ぜひ全員にコメントを頂戴したいと思っております。では青木委員お願いいたします。

青木委員 p. 9 の下の目指す姿の共通のところ、情報発信力の強化の記述がありますが、最初拝見した時に、個々のいろんなツールの活用強化ということだろうと思って伺っていたのですが、先ほど柴崎委員から情報発信の件のお話があって、もう少し体制として、バラバラにあるものの発信、あるいは、個別性があるものをもう少し根本的なところで見直すような観点か、あるいは部分的に少し統合するような形を考えるなど、文化芸術に親しめる環境づくりとしての情報発信の体制の見直しの観点で、発信をするというのも1つあるのかなと思いました。どのように取り組まれるかは別として、もう少し情報発信を仕組みとして、体制として考えられないかなと思いました。

垣内会長 このところ、1行さらっと書いてあるだけなので、具体的なところについて補足のご説明をいただいてもよろしいですか。

文化振興課長 おっしゃる通り、市のホームページの文化に関する情報につきましても、いろいろ部署ごとに分かれていたり、いろんなところを見ないと、どこにどういった情報があるかわからないといったご意見も多くいただいております。そうしたところも、統合ですとか、それをどこに置くのかとかいったところについて、今後の課題と考えております。そういった情報の出し方については今後検討して参りたいと考えております。

垣内会長 それでは山田委員お願いいたします。

山田委員 菅野委員にちょっと相乗りをさせていただきますが、第4章の施策展開の重点プロジェクトを拝見していて、やはり何となく実際にイメージしにくいといいますか、何となくわかりづらいなど。具体的なものをちょっとお聞きしたいなというところで、それぞれ4つありますけれども、取組みの事例がありますね。それよりも細分化した、より具体的な、既存のものでもいいし、新しいものでもいいのですけれども、実際にこういうことをやるんだと

いう、実際のプロジェクトの1つの事業というかそういったものも、もう少し細かくお示しいただけると、イメージしやすいのかなという感じがいたします。これですと、どういったことをやられるのかはなんとなくは分かるのですが、実際にこれからプロジェクトを推進していく際により具体的な、先程予算の話も出ましたけれども、この先を噛み砕いた形で実際の事例みたいなものをお示しいただけると、より現実性が増すというか、そんな感じがします。いずれその上の施策展開、第4章の全体像と、もちろん、こちらの重点プロジェクトはどこかで紐づけされている部分があると思いますが、なかなか結びつきと、それから、どういったものやっていくというところが、私の中ではイメージしにくい部分もあったものですから、次のステップでお示しいただけるのかなと期待をしつつ、次回につなげていただければいいかなと思っています。

また第5章、計画の推進についてです。皆さんからご意見がありました。仙台市内の中での取組みは良いのですが、さらにやはり横軸としては全国との連携とか、そういった意味でももう少し、視野を広げた中での色々な他市の事例なども含めて、もしくは連携なども含めて、この活動そのものが、もう少し広く広範に展開されると、より良いものになっていくのではないかなと思っていますので、その辺についてはご検討いただければと思います。以上です。

垣内会長 ご質問がございましたが、事務局からもし補足ができるのであれば、次回
の中間報告のイメージも多分お持ちかと思しますのでその辺りのご紹介と、
それから先ほど最後の点について、何かあれば共有してください。

文化振興課長 4つの重点プロジェクトでは今、事務局として検討しているものをご説明
させていただきますと、例えば文化芸術の担い手を育む協働プロジェクト、
公益性の高い文化芸術活動を多様な主体との協働により実施する体制を強化
とございますけれども、現在、市民文化事業団におきまして環境形成助成事
業という、文化芸術と福祉や教育など、多様な分野との連携によって、社会
課題を解決していく取組みに対して、助成を実施しているところでございま
すけれども、なかなか助成金を出すということにとどまってしまって、助言
ですとか、相談に乗るといった機能がなかなか果たせていないといったとこ
ろがございます。そこに外部の専門家の指導を受けながら、そういった伴走
型の支援というものを実現していこうといったところを1つ考えておりま
す。

それから子ども若者プロジェクトでございますけれども、こちらは今、文
化庁から助成をいただきながら、小中学校等へのアウトリーチ事業を行って
いるところでございますけれども、文化庁の予算がだんだん縮小してきてい

るという状況もありまして、幼稚園や保育所等といった義務教育学校以外のところになかなかアウトリーチできていないというような状況が生じて参りましたので、そういったところを市として予算措置をして、保育所、幼稚園等も含めた、子どもへのアウトリーチを実現していきたいといったところを考えるとござります。

文化スポーツ部長 今のお話に補足させていただきますと、まず、今回骨子案ですので、このようになっているのですけれども、次回中間案をお示しする際は、基本政策や重点プロジェクトについて、もう少し具体的に、よりイメージを持っていただきやすいようなものを次回お示ししたいと思っております。それから個別具体の事業、我々としても取り組みたい事業はあるのですが、あくまでも予算があつての話ということもござりますので、今、文化振興課長が申し上げたことも、そういったものを今できればいいなと考えているという、今後予算要求していきたいという趣旨でお話させていただいたところござります。それからこの計画自体が5年間ということですので、計画策定の段階で、これから5年間で展開する事業を全てお示しするものではなくて、この計画に基づいて今後5年、拡充や見直しを図りながら事業展開していくことになろうかと思ひます。

山田委員 ありがとうございます。実は今アウトリーチ事業の件でご説明いただいたのですけれども、実際今後、展開していく際に、例えば宮城県でも同じアウトリーチ事業やっているんですね。例えば県の文化振興財団とか、そういったところが県内も含めて、やっている。まさに連携という形で、他団体連携で地域課題を解決していくというところに、ロジックを持っていけるかなと思ひているので、そのような横の繋がりも含めて、自分だけでやるのではなくて、他との連携を意識した展開をしていくというのは、1つ方法としてご検討いただいてもいいのかなと思ひました。

垣内会長 ありがとうございます。他にご意見ござりませんか。それでは柴崎委員、その後吉田委員お願いいたします。

柴崎委員 皆さんのお話を聞きながら漠然と考えていることで重要そうだなと思ひたことが2つ。1つ目は「基盤整備」という言葉についてです。プロジェクトや建物のことは書かれているのですが、情報発信、あるいは例えば、様々なコミュニケーション方法の改善開発、障害のある人たちに対するアクセシビリティ、障害のある人たちを含む社会的弱者へのアクセシビリティなど、こうした視点も基盤整備として活動の強化が必要です。それから人材育成ということも、すごく重要なことなのかなと思ひております。まとめると、先ほど言っていたプロジェクトの中に、本当は「基盤整備プロジェクト」のような言葉が必要です。あるいは、施策の第1の部分にしっかり入れるというこ

とも必要なのかなと思って聞いておりました。

2つ目に、p. 10 の計画の推進に係る仕組みです。佐藤委員が先ほど、行政や外郭団体、そして市民団体、あるいは芸術家という個人と一緒に作っていく議論していける座組があるべきということについて触れましたが、これには強く同意しております。先ほど山田委員がお話されていた、芸団協の方たちが言っていたように、「競合から共創」へ、まさしく個人や団体の私利私欲ではなく、どういかに質の高い環境を作っていけるかというところを考えていきたいのです。改めて私たちは、被災と復興を経た文化を持つ市であり市民たちであると思うので、この仕組みは重要です。それから、やるべき仕事と一旦とどめる事業というようなことの議論も、市民側も調査などを通じて出てきたものに対して判断していけるというような、本当の計画の推進という意味で、議論の場が開かれていくということを期待したいと思っています。

最後に、これはこちらの推進基本計画のコメントではなく複合施設の中のパブコメで重要なキーワードが結構出てきていたことについて触れます。どうしても青葉山エリアや定禅寺通の、観光等に力点を置いた人々の流れを重視したところでの地域のキーワードが大変多く出てくるのですが、仙台市の海側のエリアの機能や文化の重視ということをお忘れしないでほしいというコメントがありました。今、アートノードの事業などが重視している、貞山堀の辺りや荒浜、メモリアル館などの仕事はおそらくすごく力を入れてやっているはずで、そうしたエリアや文言が全体を通じて欠けていないかを検証する必要もあります。パブコメの市民による大事な指摘をふと今思い出したので、追加の情報になりますが、ここでコメントさせていただきます。

吉田副会長

私はどうしてもこのような計画を立てたときに、それが具体的に実践できるかどうかということを余計なことですけど心配してしまうのです。第1回目の懇話会で、仙台市の現状が話題として出された時に、確かに芸術文化活動、いたるところでたくさんなされている。ところがそれが仙台市全体的なものですから、なかなか調整がつかず、深まりや充実というものが見られないというような言葉が出てきました。今回この基本計画を作ることによって、それらが意識化され統合されて、そしてさらに充実されていくということが期待できるだろうということで、そこに基本施策が並べられているわけですが、これも先ほど菅野委員が言ったように、今までの既存の文化芸術活動が、そこに並んでくるということなのですよ。それだけでも充実はすると思うのですけども、さらに深化させよう、ということで考えられたのがこのプロジェクトだと思うのです。このプロジェクト、非常に大切なことなのですけども、実際これから5年間の中でどれくらいやれるのか。数を上げ

ればきりがない、色々なものが期待できますけれども、実際やれるのは何なのかというときに、あまり私は欲張らないほうがいいのかなと。重点化して、これとこれを5年間でやっていきましょう、それでもって仙台市の文化芸術を充実させましょう、というような姿勢でもいいのかなと感じています。

さらに少し細かいことになりましたけれども、基本施策の中に先ほども佐藤委員から出ました、いわゆる調査研究の在り方です。多様な文化芸術活動が展開され、その担い手が育まれるまちのところにだけに紐づけられていますよね。この調査研究、研究のあり方はどのようになされるのかということですね。俗に言われます、研究のための研究ではないと思いますし、1つの論文をまとめるだけの研究ではないと思います。おそらく仮説を持って実践研究というようなことがなされるのかなと思うのですよね。そのようなときに、ここのところだけの調査研究の位置付けでいいのかということも言えるのです。もう少し幅広に考えてもいいのではと考えます。これも再考していただければと思います。

さらに、これは青木委員がおっしゃったことと重なりますけれども、情報発信力の強化、私はこれこそ大切にさせていただきたいと思っております。前の市民に対するアンケートの結果にも、機会があれば、文化芸術に関わりたいという回答がたくさん寄せられました。その機会が何によって作られるのか、それはいわゆる情報なのですよね。情報が多ければ、そこに選択が生まれて機会が生まれる。ですので、ここのところをかなり深く、表記していただければなど強い願いを持っております。以上です。

垣内会長

ありがとうございました。およそ一巡いたしました。私からも3点ほど、申し述べたいところがあります。まず計画ですけれども、白紙で計画を作るわけではなくて、これまで何十年も仙台市がそれぞれの団体、業界、市民のニーズを踏まえて実践してきて、その成果も出ている。そういう事業がたくさんある中で、今回計画を立てるということで、この既存のもの、吉田委員のおっしゃったように、既存の大事なものを次に生かしながら、そして新しいニーズにこたえて、次の、未来につながる新しい事業も盛り込みながらこの計画を作っていくというような考えだと思っております。ですので、一見既存のものが並んでいるように思われるかもしれませんが、それはやはりニーズがあってここまでやっているわけですから、また成果も出ているのでやっているということもありますので、そのところは当然、踏まえながら、記述する必要があります。また、新しく必要があるものについては、この5年間で実施して、そしてある程度成果が出るような形でこの重点プロジェクトを作るという考え方も非常に理解できると私自身は思っています。

そして、推進体制のところではPDCAサイクルをまわす、専門家による外部の視点を入れた評価体制を検討するとありますけれども、ここはぜひやっていただきたいと思います。評価というとPDCAのCだけと思われるかもしれませんが、決してそうではないし、次のアクションにつながるわけですよ。ですので、ここできちんと評価ができれば次の施策に繋がっていく。その必要性やニーズが明らかになっていけば、当然そこで予算措置もかなり実現されやすくなると思いますので、このPDCAサイクルはぜひ回していただきたいというのが1点目。

2点目の情報発信なのですけれど、どこでも皆さん情報発信が重要というのですよね。つまりは、必要な人に届いてないというのですけれど、実は結構必要としていない人たちも多いというのが現実です。最近ではデジタル世代の情報発信ですので、情報を受けた方が、自分たちのコミュニティ、仲間に回していく、リツイートするとか、拡散していく。そうした形での情報発信なので、市だけが頑張る情報発信するという考え方はもうやめた方が良いのではないかなと。行政だけが発信者ではないので、まさに市民と協働、連携といったお話がありましたが、それがデジタル時代になったのでよりスムーズにスピーディーにできるようになりましたので、情報発信のあり方も既存の考え方と少し違うということをお考えいただければと思います。海外、それから京都がそうなのですけれど、ナビサイトがあるのですよね。例えば何月何日に、京都に行く、あるいは出張が決まりましたら、その日付を入れると分野別にイベントが出てくるのです。たくさんイベントが出てきて、そこから選んで、そのサイトに飛んで、場合によってはチケットまで買ってお金も払える。文化芸術セクションだけでなく、観光のセクションもあるでしょうし、民間の様々なサイトもあるでしょうから、ご協力をいただいて、まさに連携して、よりよいものを、作っていただければ、市民の方もたぶんお使いになられると思う。情報発信の良いシステムを構築していただければと思います。

3点目は先ほどから出ている調査なのですけれども、5年間の計画期間では調査研究する時間をもったいないのではないかと思います。調査研究もするのでしょうかけれども、まさに基盤づくりをどんどん進めていくという基盤づくりを推進する、ネットワーク構築などもあります。ネットワーク構築を支援するなど書いて、そのサブの部分で調査研究も併せてしますという、立て付けの方がいいかなと思いました。吉田委員も仰ったように、調査研究するのはだいたい他の分野でも他の施策でも当然必要なことですので、こここのところ、ちょっと目立つなという感じがいたしました。

それ以外は時間的な制約のある中で、非常によくおまとめいただいた骨子案だと私自身は拝見いたしました。ありがとうございました。

さて、終了時間も大分迫ってきておりますけれども何か確認しておきたいこと、あるいは言い忘れたことなどございましたらぜひお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。本日のご議論を踏まえて、今回は骨子案となっておりますが、次回は計画の中間案となります。具体的に肉付けをされた中間案が出てくると聞いております。それに向けて、ここを特にぜひ追記して欲しいとか、そういったコメントがあればぜひ頂戴したいところですが、いかがでしょうか。

佐藤委員

先ほど重点プロジェクトの1つに、あらゆる人に参加機会を開くという視点を入れた方がいいのではないかと申し上げたのですが、一通り議論を伺いながら、これは柴崎委員にも伺いたいなと思ったのですが、情報保障の話は、もしかしたら共通の項目に入ってくるのではないかと思います。つまり今、情報発信と言った時は情報発信のメディアや、それをどのような形で発信するかという方法の話になってしまうのですが、そもそも、先ほどの計画の言葉遣いについて指摘もありましたが、その情報をどう作るのかや、情報をどう保障していくのかという根本から考えたときに、重点プロジェクトよりも共通の方に持ってきたほうがいいのかかもしれないなと思いました。

もう1点は先ほど実施体制のことを申し上げたのですが、改めてこの計画があることで、今までの事業の整理をしているというところがありますが、同時に今の社会状況や、これまでの議論を踏まえてあるべき形が見えてきて、そのために必要な機能が出てきているのだと思います。例えば助成をやるのだとしてもお金を出すだけではなくて、ノウハウとかネットワークも一緒に提供する伴走型にすべきであるという話だったり、それから今、学校という場が見えやすく子どもがいる場として入っているけれども、子どもがいる場所というのは、もっと多様だから他のところにも行くべきであるという意見も出ています。計画という枠組みがあるからこそ見えてきた新しい機能があり、それを実装していくべきであるという議論になっていると思います。機能が増えるということは、それが実施に移ったときに仕事が増える。そのために人が必要なことは明確です。先ほど実施に関わる運営体制を作った方がいいのではないかと申し上げましたが、ここでやるのが新しく増えると言った時にどういう形で体制を作っていくのかを考えないといけないと思います。例えば今通常の助成事業をやっている担当の人が伴走型をやるのも大事ですが、同時にそのための人材を入れた方がいいのかなども、考えていく必要がある。そのように進めることは、この仙台市の文化にとって新し

い動きだと思えます。計画で言っている担い手育成の話自体が、実はこの計画を推進していくことによって、計画を推進する人たちの間において人材育成効果が生まれるかもしれない。行政のみなさんもやったことがないことをやるだろうし、市民の人たちも何かちょっと違ったことをやるという意味で、この計画推進に関わった人たちが変わっていくことが、結果的に、この計画の目的を達成していくことに繋がるのではないかと。計画の名前が単純に基本計画ではなく、「推進」という意思を持っているのはいいなと思えます。あくまでも計画なので、あまりやることを細かく拘束しすぎない方がいいと思うのですが、よりよく計画を推進できる方法は考えたい。文化活動に参加した人がウェルビーイングになるのはもちろん大事なのですが、その活動を回す人のウェルビーイングが失われたら意味がないので、計画に関わっている人もよりよく自分を変化させながら進めていく運営体制を考えるのは重要だと改めて思いました。以上です。

垣内会長 ありがとうございます。他にございませんか。それでは、いろいろなご議論、コメントを頂戴しましてありがとうございました。この辺りで本日は終了したいと思います。次回は計画の中間案についてご議論いただきたいと考えております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。それでは進行をお返しいたします。

4. 閉会

・司会より、次回の懇話会の予定（11月上旬）をお知らせし、閉会。

—以上—